

「第2期 健康くるめ21」計画の進捗状況について

1. 評価指標について

「第2期健康くるめ21」計画では、5つの基本方針を定め、計画推進による成果を客観的に評価できるよう、54の評価指標（目標値）を設定し、毎年度その進捗管理（評価）を行っている。平成29年度における各評価指標の評価状況については、次のとおり。

(1) 評価状況（基準値と最新値の比較）

・ **A評価 目標値に達している：4指標**

〔主な指標〕 生活習慣病予防健診の受診率の向上／10代の性感染症罹患率の減少／積極的に育児をしている父親の割合の増加 など

・ **B評価 目標値は達成していないが、改善傾向にある：28指標**

〔主な指標〕 特定健診・特定保健指導の実施率の向上／高血圧の改善／がん検診等受診率の向上／歯科健診等の受診率の向上／成人の喫煙率の減少／妊娠・出産について満足している人の割合の増加／乳幼児健康診査の受診率の向上／10代の人工妊娠中絶実施率の減少 など

・ **C評価 変わらない：2指標**

〔主な指標〕 がん検診精密検査受診率の向上 など

・ **D評価 悪化している：11指標**

〔主な指標〕 メタボリックシンドロームの該当者・予備軍の減少／脂質異常の減少／日常生活の中で意識的に体を動かしたり運動している者の割合の増加／ストレス解消法を持っている人の増加 など

・ **評価不可：9指標（基準値、最新値ともに中間評価値であることから評価できないもの）**

※中間評価で目標値を達成した指標は、基準値を中間評価の実績値に上方修正。

(2) 基本方針毎の評価状況

基本方針	評価指標	評価区分 (基準値との比較)					基準値を 上方修正 (中間評価時)
		A	B	C	D	不可	
生活習慣病の発症予防と重症化 予防の徹底	14	1	5	1	2	5	5
		※最新値と中間評価値が同値:11					
健康に関する生活習慣の改善	17	0	9	0	6	2	2
		※最新値と中間評価値が同値:12					
こころの健康づくりの推進	3	0	0	0	2	1	1
		※最新値と中間評価値が同値:3					
個人の健康を支える環境の整備	3	0	2	0	1	0	0
		※最新値と中間評価値が同値:3					
すべての子どもが健やかに育つ 社会環境の整備	17	3	12	1	0	1	3
		※最新値と中間評価値が同値:5					
合計	54	4	28	2	11	9	11

2. 計画の進捗状況について

本計画では、平成29年度に中間評価を行い、その時点で、既に目標値を達成したもの（A評価）が12指標、改善傾向（B評価）にあるものが27指標で、合わせると全体の約7割を占めていた。また、健康寿命も順調に伸びていたことから、中間評価において、本計画の推進は、「概ね順調に進んでいる」と評価したところである。さらに、A評価のうち11指標は、基準値を中間評価値に上方修正し、計画の更なる推進を図ることとしている。

一方、最新の実績値に関しては、A評価が4指標、B評価が28指標で、全体への比率は約6割となっている。しかしながら、中間評価から更新されていない値が34指標と、全体の約6割にのぼる。このため、中間評価時から大きな変化はないものとする。

3. 今後の取り組みについて

基本目標である「健康寿命の延伸」を着実に図っていくためには、基準値からの悪化を示すD評価の指標（11指標）及び改善傾向を示すB評価であるものの依然として目標値との隔たりが大きい指標、これらの改善に一層取り組んでいくことが重要である。

特に、以下の評価指標については、基本目標を達成する上で重要な指標であることから、以下の方針により、今後取り組みの更なる推進を図っていくこととする。

- ・ 特定健診・特定保健指導の実施率の向上（B評価）
- ・ メタボリックシンドロームの該当者・予備群の減少（D評価）
- ・ 脂質異常の減少（D評価）

健診受診率向上のため、本年度から個人負担金無料化や集団健診の拡充、及びインターネットによる集団健診の予約受付などに取り組むとともに、健康ポイントなどインセンティブを活用した取り組みを検討していく。また、保健指導の実施率向上に向けては、本年度から利用勧奨実施のための体制を確保するとともに、国の示す制度緩和策の導入に向けた検討を進める。併せて、これらの取り組みを通じて、メタボリックシンドロームの該当者等の減少や脂質異常の減少に繋げていく。

- ・ がん検診等受診率の向上（B評価）
- ・ がん検診精密検査受診率の向上（C評価）

検診受診率向上については、特定健診同様、本年度から集団検診の拡充やインターネットによる集団検診の予約受付などに取り組むとともに、健康ポイントなどインセンティブを活用した取り組みを検討していく。また、精密検査の受診率に関しては、検診によるがんの発見率など、精密検査の必要性を積極的に周知しながら、その向上に取り組んでいく。

- ・ 日常生活の中で意識的に体を動かしたり運動している者（D評価）

幅広い世代が、手軽に取り組めるラジオ体操やウォーキングの推進に引き続き取り組んでいく。ラジオ体操については、スポーツ推進委員との連携強化により、本年度から普及イベントである「市民ラジオ体操の集い」の会場を拡充するなど、多くの市民がラジオ体操に親しむ機会の拡大に取り組んでいく。また、ウォーキングについては、本年度から市内シューズメーカーと連携し、既存事業の充実を図るとともに、健康ポイントなどインセンティブを活用した取り組みを検討していく。

- ・ ストレス解消法を持っている人の増加（D評価）
- ・ 睡眠による休養を十分とれていない者の減少（D評価）

ストレス解消法については、こころの健康に関する正しい知識やストレスへの対応方法等の普及・啓発を行うとともに、職域と連携した取り組みを推進していく。また、不眠等への対策に向けては、引き続き、かかりつけ医と精神科医等のネットワークの充実に取り組んでいく。